

また沖縄が戦場になるって本当ですか！

三上智恵監督講演会

今年の沖縄のつどい実行委員会では、映画監督の三上智恵さんをお招きし、映画の上映と講演を企画しました。さまざまなニュースの陰に隠されてしまいがちな沖縄が、「敵基地攻撃能力」を持つとしている日本によって今どうなっているのか、お話を伺います。映像とお話を通して考え、語り合ってみませんか。



(C) 三上智恵

『標的の村』『戦場ぬ止み』『標的の島 風かたか』『沖縄スパイ戦史』
三上智恵監督 新作ドキュメンタリー 製作開始
長編ドキュメンタリー映画 2024年春完成予定



三上智恵 監督最新作

いくさば

『沖縄、再び戦場へ』(仮)

スピンオフ作品〈45分〉

okinawakiroku.com

スピンオフ作品 (45分) 上映後
三上智恵監督にお話を伺います



日時：6月30日(金) ～沖縄のつどい2023～

開演：18:30～21:00 (18:00開場)

会場：明治学院大学白金キャンパス本館3階 1301教室

定員200名、事前申し込み不要、当日先着順、直接会場にお越しください

資料代：800円 (学生・明治学院大関係者 無料)



主催：沖縄のつどい実行委員会 (官森・630を伝える会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、公益財団法人原爆の図丸木美術館、
共催：明治学院大学国際平和研究所 (ピース・ニュース、平和を実現するキリスト者ネット))
賛同：公益財団法人東京YWCA、沖縄戦首都圏の会、沖縄平和ネットワーク首都圏の会、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

基地がある限り、 安全な日はこない！

(キーストン提供)

米軍機のエンジン部分が
突っ込んだ6年3組の教室



ヘリ墜落の際もまるで米軍政下時と同じように、米軍による現場の封鎖が行われました。最近も普天間基地所属のオスプレイが墜落したり、米軍機の部品が保育園や小学校に落とされたりしています。沖縄に限ったことではありません。首都圏でもオスプレイの離着陸や羽村市の中学校の校庭へのパラシュート落下などがあり、大きな事故が起こる可能性は、日本中いつでもどこでもあるのです。

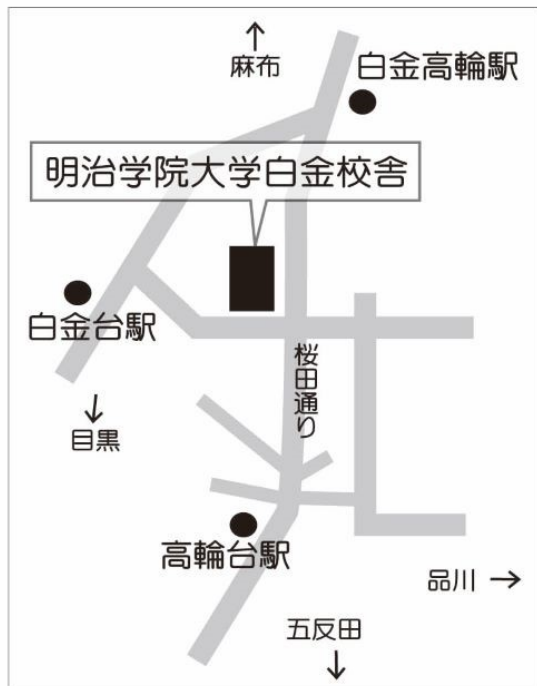
沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件

子どもたちがいる教室に、米軍機が突っ込んでくる、そんなことをあなたは想像できますか？

64年前の1959年6月30日、嘉手納基地を発進した米軍のジェット戦闘機は、沖縄県うるま市（旧石川市）の住宅地に墜落炎上し、機体の一部が宮森小学校の教室に突っ込みました。死者18名（児童11名、住民6名、さらに児童の1名が大学入学後に後遺症で亡くなる）、負傷者212名（児童156名、職員2名、住民54名）、小学校、公民館、民家25棟が全半焼。——米軍による最大の基地被害の事件です。普天間や嘉手納をはじめとする基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件が教えてくれます。沖縄の「本土復帰」から32年後、2004年沖縄国際大学米軍

《三上智恵（みかみ・ちえ）のプロフィール》

ジャーナリスト、映画監督。琉球朝日放送のメインキャスターを務めながら、「海にすわる～辺野古600日の闘い～」(ギャラクシー賞)「1945～島は戦場だった オキナワ365日～」(民放祭連盟賞)「英霊か犬死か～沖縄から問う靖国裁判～」(早稲田ジャーナリズム大賞)など、沖縄の文化、自然、社会をテーマに多くのドキュメンタリー番組を制作。2012年制作の「標的の村～国に訴えられた沖縄・高江の住民たち～」は、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞ほか多くの賞を受賞。14年フリー転身後に『戦場ぬ止め(いくさばぬとうどうみ)』、『標的の島風(かじ)かたか』、『沖縄スパイ戦史』を劇場公開。『沖縄スパイ戦史』はキネマ旬報ベストテン文化映画部門第1位、2019年度文化庁映画賞など、数多くの賞を受賞する。



《スピノフ作品の説明》

2024年劇場公開にむけて製作をスタートした新作ドキュメンタリー映画『沖縄、再び戦場(いくさば)へ(仮)』。その完成に先んじて、三上智恵監督は「刻々と変わっていく、沖縄の予断を許さない状況と危機感を全国の皆さんに今すぐ共有していただきたい」と、いままで撮りためた映像から、45分ほどの〈スピノフ作品〉を作りました。「すでに戦争が始まっているような危機感が全国に共有されていない中で、新作を作りながら、同時に伝えていく仕事もしたいと思っています。どうか皆さん、一緒に伴走してください」と三上監督から呼びかけられています。

連絡先：090-1837-4579 (松本)

E-mail：hyoteki.sagamihara@gmail.com

◀ 会場

「白金台駅」2番出口・「白金高輪駅」1番出口・「高輪台駅」A2出口 徒歩7分